

## 【目次】

1. 日本労働会館(旧惟一館)、1931年8月27日(昭和6年)の開館式から91年！
2. 日本労働会館(総同盟本部、現友愛会館)建設を支えた人たち！
3. 出張講演 UA ゼンセン・流通部門「第二期 惟一塾」(逢見直人塾長)、演題「次世代に期待すること」を実施。
4. お知らせ 10月24日(月)～25日(火)、メンテナンスのため臨時休館。

### 1. 日本労働会館(旧惟一館)、1931年8月27日(昭和6年)の開館式から91年！

日本労働会館(旧ユニテリアン教会惟一館、現友愛会館)は2021年8月27日、開館90年を迎えました。大正元(1912)年8月1日、惟一館で誕生した友愛会は、その後総同盟へと発展し、戦前の日本を代表する中央労働団体となりますが、その本部は惟一館(明治27年竣工1894)に置かれていました。惟一館は米国ユニテリアン協会が日本から撤退するときに売却され、その後、転々として東京建物の手に移っていたのを昭和5(1930)年に総同盟が買い取ったものです。

総同盟は惟一館を建替え、3階建総建坪540坪の新会館とする予定でしたが、折からの経済不況で建設カンパ(寄付金)が目標に達せず、結果として惟一館を大改修し、日本労働会館としました。これによりジョサイア・コンドルの設計になる惟一館は現存し、その独特の姿を芝の地に見せていましたが、昭和20(1945)年5月の東京山の手大空襲で焼失しました。

惟一館を買収した総同盟は昭和6(1931)年6月から改造に着手し、8月に完工。同月27日に開館式、続いて29日までの三日間、開館祝賀の演芸会が開かれました。記録によると開館式には約250名が出席し、三木治朗理事の開会挨拶、松岡駒吉理事長の会館建設経過報告、片山哲社会民衆党役員らの祝辞が行われました。なお、松岡理事長の経過報告の中で「惟一館の歴史」が紹介され、わが国最初の無産政党である社会民主党の結党準備が行われ、また友愛会(現連合)が結成されたことにより惟一館は「日本の社会運動の発祥の地」となったことが報告されました。さらに経過報告「感謝を捧ぐ」では、クレイ・マッコレーイ(米国より派遣されていたユニテリアン牧師)、鈴木文治、安部磯雄、吉野作造らの名前が挙げられ、感謝の気持ちが表明されました。

開館式の後に記念講演会が開かれ、鈴木文治総同盟顧問の「労働組合の歴史的使命」、新渡戸稲造氏の「国際平和と労働組合」、安部磯雄社会民衆党委員長の「労働組合と産業民主主義」などの講演が行われました。なお、安部磯雄、賀川豊彦、鈴木文治、新渡戸稲造、吉野作造の5氏は、日本労働会館建設後援会を組織し、資金面でも日本労働会館建設を支えました。

## 2. 日本労働会館(総同盟本部、現友愛会館)建設を支えた人たち！

昭和5年に総同盟が惟一館を買収し日本労働会館としたとき、これを支えたのが安部磯雄、賀川豊彦、鈴木文治、新渡戸稲造、吉野作造の5名でした。以下、その略歴を掲載いたします。



### 安部磯雄(1865.3. 1～1949.2. 10)

日本社会主義運動の先駆者。1865年3月1日、福岡県生れ。クリスチャン。1884年に同志社大学卒業。その後、ハートフォード神学校(米国)やベルリン大学(独逸)に学ぶ。1895年に帰国後、同志社大学教授を経て早稲田大学教授。ユニテリアン協会に所属。1901(明治34)年、社会民主党結成。1926年に社会民衆党を結成し委員長。1928年の第一回普選で当選。1932年、社会大衆党委員長。戦後、日本社会党顧問。1949年2月10日、死去。



### 賀川豊彦(1888.7. 10～1960.4. 23)

1888年7月10日、神戸市生れ。明治学院、プリンストン大学で神学を学ぶ。戦前日本の労働運動、農民運動、無産政党運動、生活協同組合運動等の先駆者。神戸のスラム街で伝道し、「スラムの聖者」と呼ばれる。1921年、神戸の三菱・川崎両造船所争議を指導し検挙される。その後、農民運動に軸足を移し、日本農民組合を結成。1923(12)年の関東大震災復興のため東京に移転。活動を宗教運動へ収斂。1960年4月23日、死去。



### 鈴木文治(1885.9.4～1946.3. 12)

友愛会創設者、日本労働運動の父。政治家。1885年9月4日、宮城県生れ。クリスチャン。旧東京帝国大学卒業。秀英舎(現・大日本印刷)、朝日新聞などを経て統一基督教弘道会(会長安部磯雄)幹事に就任。翌1912(大正元)年、友愛会を創立し、初代会長となる。「労働者の人格の尊重」を訴え、大正期の労働運動を指導。この間、ILO総会への日本代表などで国際的にも活躍。1926(大正15)年の社会民衆党結成に参加し、1928(昭和3)年の第一回普選で当選、政治へ舞台を移す。1946(昭和21)年3月12日、死去。



### 新渡戸稲造(1862.9. 1～1933.10. 15)

農学者、教育者、国際連盟事務次長。『武士道』の著者として有名。1862年9月1日、岩手県盛岡市生れ。クリスチャン。札幌農学校(現、北海道大学)のときキリスト教に入信。東京帝国大学進学後、アメリカに留学。ジョージ・ホプキンス大学、独ボン大学で研究。帰国後、札幌農学校に赴任。その後、第一高等学校長、東京帝国大学教授、東京女子大学学長などを歴任。1920年の国際連盟設立に際し、事務次長に就任。1933年10月15日、滞在中のカナダで死去。



### 吉野作造(1878.1. 29～1933. 3. 18)

政治学者、大正デモクラシーの旗手、民本主義の思想家。1878年1月29日、宮城県生れ。クリスチャン。鈴木文治の同郷の先輩。旧制第二高等学校、東京帝国大学卒。後に東大教授。1916(大正5)年、『中央公論』に「憲政の本義・・・」を發表し、大正デモクラシーの代表的な論客となる。1924年、東大教授の職を辞す。その後、無産政党との関係を強め、普選運動を推進し、1926年の社会民衆党結成に関わる。

1933年3月18日、死去。

### 3. 出張講演 UA ゼンセン・流通部門「第二期 惟一塾」(逢見直人塾長)、演題「次世代に期待すること」を実施。

8月29日(月) UA ゼンセン・流通部門「第二期 惟一塾」の要請により、藤吉館長が出張講演をしました。演題は「次世代に期待すること」。内容の要点は、産業別労働組合の役割と責任、流通労働組合の位置づけ、労働運動と政治、私たちの労働運動思想、同盟的なコーポレートガバナンス(企業統治)の具体的なあり方、生産性運動三原則の今日的な理解、生産性経営への転換をどう図るか、あるべき労使関係は友愛会から同盟への発展の中にあり。など二泊三日で若い塾生たちと膝を交えて、飲み、語り、話し合い、大変中身の濃い時間を過ごしました。参加者の皆様の熱心な姿に、明るい未来を感じました。

### 4. 臨時休館のお知らせ

10月24日(月)～25日(火)の両日、メンテナンスのため臨時休館します。

-----**「人間の尊厳、進歩と発達のために」**-----

発行:友愛労働歴史館

責任者:藤吉大輔

〒105-0014 港区芝 2-20-12

友愛会館 8F

TEL050-3473-5325

Eメール [yuairodrekishikan@rodokaikan.org](mailto:yuairodrekishikan@rodokaikan.org)

HP <http://www.yuairodrekishikan.com>

-----**惟一館から128年、友愛会から110年**-----